



平成 27 年度 体験活動プログラム 活動報告

体験活動の推進に関するワーキンググループ
2016/03/31

目次

I	体験活動プログラム実施概要.....	1
II	体験活動プログラム活動報告.....	3
III	体験活動プログラム活動報告会	33
IV	付録	
	・ 体験活動プログラム概略	37

I 体験活動プログラム実施概要

●概要

学部前期・後期課程の学生を対象とし、大学生活とは異なった考え方や発想、行動様式又は価値観と触れ合うための多様な形態と内容のプログラムを提供するものです。

平成 24 年度に「体験活動に関するワーキンググループ」を設置し、平成 24 年度には 176 名が活動に参加、さらに平成 25 年度以降は研究室体験活動プログラムを加え、毎年 300 名以上の学部学生が様々な体験活動を行っている。

●平成 27 年度体験活動プログラム実施データ

<プログラムの件数および募集人数>

○ 提供プログラム数：106 件、活動実施プログラム数：84 件、募集人数：660 名

区分	プログラム提供件数	プログラム実施件数	募集人数
国内プログラム	61 件(50%)	45 件(51%)	397 名(55%)
海外プログラム	17 件(20%)	17 件(27%)	141 名(25%)
研究室プログラム	28 件(30%)	22 件(22%)	122 名(20%)
全プログラム	106 件(100%)	84 件(100%)	660 名(100%)

<出願、参加状況>

- 全プログラムでの総募集人数 660 人に対し、出願者数は 443 名(67%:募集人数比)、出願者のうち、参加者数は 316 名(71%:出願者数比)。
- 国内プログラムは総募集人数 397 名に対し、出願者数は 182 名(46%:募集人数比)、出願者のうち、参加者は 146 名(80%:出願者数比)。
- 海外プログラムは総募集人数 141 名に対し、出願者数は 208 名(148%:募集人数比)、出願者のうち、参加者は 120 名(58%:出願者数比)。
- 研究室プログラムは総募集人数 122 名に対し、出願者数は 53 名(43%:募集人数比)、出願者のうち、参加者は 50 名(94%:出願者数比)。

区分	総募集人数	出願者数	参加者	不採択者
国内プログラム	397 名	182 名 〈46%〉	146 名 《80%》	36 名 《20%》
海外プログラム	141 名	208 名 〈148%〉	120 名 《58%》	88 名 《42%》
研究室プログラム	122 名	53 名 〈40%〉	50 名 《94%》	3 名 《6%》
全プログラム	660 名	443 名 〈67%〉	316 名 《71%》	127 名 《29%》

〈 〉内は募集人数との比率、《 》内は出願者数との比率

なお、プログラムに出願し、不採択となった者が別のプログラムに出願しているため、出願者数は延べ数を示す。

また、研究室プログラムについては複数の申請が可能となっており、出願者数及び参加者数は延べ数を示し、不採択者数には採択後に参加を辞退した者及び活動中止となったプログラムに参加を予定していた学生の数を含む。

<採択者の属性>

◆男女別内訳

○ 参加者 316 名の男女別内訳は、男子学生が 164 名(52%)、女子学生が 152 名(48%)。

	男子学生	女子学生	計
参加者の男女別内訳	164 名 (52%)	152 名 (48%)	316 名 (100%)

◆学年別内訳

○ 参加者 316 名のうち、学部前期課程学生は 172 名(54%)、学部後期課程学生は 144 名(46%)。

○ 参加者 316 名の学年別内訳は、1 年生 66 名(21%)、2 年生 106 名(34%)、3 年生 100 名(32%)、4 年生 38 名(12%)、5 年生 6 名(1%)、6 年生 0 名(0%)。

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計	男子	女子
法			14 名	9 名			23 名	13 名	10 名
医			5 名	3 名	5 名		13 名	7 名	6 名
工			21 名	5 名			26 名	19 名	7 名
文			12 名	4 名			16 名	6 名	10 名
理			4 名	4 名			8 名	5 名	3 名
農			13 名	4 名	1 名		18 名	7 名	11 名
経済			8 名	4 名			12 名	10 名	2 名
教養	66 名	106 名	10 名	1 名			183 名	90 名	93 名
教育			8 名	2 名			10 名	4 名	6 名
薬			5 名	2 名			7 名	3 名	4 名
計	66 名	106 名	100 名	38 名	6 名		316 名	164 名	152 名

教養学部欄の「1 年」、「2 年」の欄は、前期課程の学生を示す。

◆学部前期課程学生の科類別内訳

	文一	文二	文三	理一	理二	理三	計
1 年	12 名	9 名	14 名	11 名	19 名	1 名	66 名
(国内)	8 名	6 名	9 名	9 名	7 名	0 名	39 名
(海外)	4 名	2 名	5 名	1 名	4 名	0 名	16 名
(研究室)	0 名	1 名	0 名	1 名	8 名	1 名	11 名
2 年	26 名	14 名	23 名	18 名	23 名	2 名	106 名
(国内)	15 名	4 名	13 名	7 名	9 名	0 名	48 名
(海外)	11 名	10 名	6 名	7 名	8 名	1 名	43 名
(研究室)	0 名	0 名	4 名	4 名	6 名	1 名	15 名
計	38 名	23 名	37 名	29 名	42 名	3 名	172 名

Ⅱ 体験活動プログラム活動報告

国内プログラム名称		ページ数
1	東大こだま分教室の学習支援	4
2	わかまつ学級の活動支援(新宿区立余丁町小学校)	4
3	「学びのポイントラー」地域教育支援参加	4
4	在宅医療・介護体験プログラム	5
5	東大病院入院中の難病の子どもの家族を支援するドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンのインターンシップ	5
6	TSCP学生委員会による本学低炭素キャンパス活動	5
7	日本語教室でのボランティア	6
8	超人口減少・超少高齢化・財政難に直面する課題先進地域である隠岐島前において、教育の魅力化に取り組む公立塾・隠岐国学習センターで中高生の学習支援をしながら課題発見・解決をするプロジェクト	6
9	石垣島白保のサンゴ礁調査 赤土流出のモニタリングと現地文化体験	6
10	文化ワークショップを基本とした過疎・高齢地区のまちづくり体験プロジェクト	7
11	少子高齢化最前線である日本の明るいミライ 山里でまなぶ、はたらきかた、暮らしかた、生きかた体感プログラム	7
12	旧・博物館動物園駅の進化と再生提言を軸にしたアートによる上野・谷中の地域活性化活動	7
13	困難を抱えるこども達の自然体験活動をサポート！～海で・山で・川で～	8
14	こども達の自然体験活動をサポートするリーダーにチャレンジ！～山・海・川・湖でダイナミックな体験を～	8
15	Documentary research for the French Embassy	8
16	Internship program at Lycee Franco-Japonais de Tokyo	9
17	学術出版の体験的学習	9
18	「復興留学」～復興まちづくりの業務体験～	9
19	明石市役所での就労体験事業	10
20	未来を指向する地方自治体の活動への参加	10
21	陶板複製名画美術館を体験する	10
22	地方高校再建計画 (東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト)	11
23	いざ地域活性化の先進地へ！！ (東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト)	11
24	食品流通を感じる～革新的な現場から～ (東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト)	11
25	マーケティング視点での課題解決を実践で学ぶ (東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト)	12
26	お持ちします、市長の靴。～現役市長と向き合う行政の現場～ (東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト)	12
27	ビジネスの視点から最先端技術×ものづくりを実践する (東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト)	12
28	地域の魅力を自分なりの切り口で発信する！ (東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト)	13
29	日本から世界へ！日本の強みで世界にバリューを～JICAの国内研修現場で国際協力を知る(東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト)	13
30	インターン事業の実施	13
31	インターン事業の実施	14
32	犯罪被害者支援に関する事業の実施	14
33	～海を、ジオを、南伊豆を小学生たちと体験しよう～	14
34	加賀温泉郷まるごとキャンパス体験	15
35	みかんの収穫・販売体験から中山間地域の底力を考える	15
36	測量船による海洋観測実地体験	15
37	農業・牧場作業体験@北海道	16
38	農業・漁業体験と地域体験	16
39	希望学プロジェクト ふくい体験プログラム	16
40	癒しの森の森林管理～おじいさんは山へ柴刈りに～	17
41	森が社会に貢献するー持続可能な森づくりへの挑戦ー	17
42	海のフィールドワーク体験活動	17
43	伊豆の体験活動 ー南伊豆という一地域との連携に学ぶー	18

44	森林・水・土砂の長期モニタリング調査体験	18
45	糠千むらづくりプロジェクト ー空き家改修を通じて地域づくりを学ぼう！ー	18
海外プログラム名称		ページ数
1	キャンパスツアー・学生交流訪中団	19
2	上海および上海近郊の地方都市を中心とした国際交流体験活動	19
3	シンガポールでビジネスを学んでみよう	19
4	医学と平和	20
5	新興国インドでのマーケティングリサーチ	20
6	TOPS (Tokyo Oxford Programme of Summer)	20
7	英国ロンドン、欧州ビジネスセンター体験活動	21
8	VE,italia・Veneto Experience	21
9	フランスEcole Polytechniqueでキャリア形成の可能性を追求する(原則として理系)	21
10	ハーバード大学医学部研究室の訪問・見学	22
11	Work experience in the international venture business in Boston	22
12	Woods Hole Oceanographic Institution	22
13	ロサンゼルスにおける(日系・非日系)移民の多様性を学びドキュメンタリー・フィルムを製作する	23
14	オーガニック農場での Sustainable agriculture 体験(米国)	23
15	有機農場での Community Supported Agriculture 体験(米国)	23
16	アメリカで事業をすることの素晴らしさとチャレンジ(内側からアメリカ社会をみてみよう)	24
17	世界の情報発信の中心地、ニューヨークの脈動を体感してみよう	24
研究室プログラム名称		ページ数
1	再生医療の研究開発に触れる	25
2	「医学の知」の体験ー手術とは何か？ 体内臓器を探ってみましょう！	25
3	「医学の知」の体験ー臨床の死生学	25
4	特許データベースを用いた生命科学分野の研究活動の検証	26
5	農地環境サンプルの放射性核種の検出と測定	26
6	微生物から有用な天然有機化合物を探索する	26
7	脳・身体と精神のシステム論的研究への誘い	27
8	クラスター計算機の試作と並列計算	27
9	水循環・水資源研究短期体験	27
10	機能分子をつくってみよう(機能性錯体化学研究室短期体験)	28
11	持続性循環資源工学研究室短期体験	28
12	量子力学・表面科学短期体験	28
13	核融合プラズマ実験入門 ー人工太陽は創れるか？ー	29
14	知能移動ロボットの行動と制御	29
15	電気機械エネルギー変換を体験する	29
16	人体通信を体験する	30
17	モーションセンサによる人間行動認識手法の研究	30
18	環境調和型技術としての超臨界水を学ぶ	30
19	柏キャンパスおよびその周辺の自然環境モニタリング	31
20	利根川水系におけるニホンウナギの生態学的研究	31
21	発達障害のある子どもを対象とした認知心理実験の現場体験	31
22	DO-IT (Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology) Japan	32

【国内プログラム】

01. 東大こだま分教室の学習支援

東京大学医学部附属病院の院内学級である東大こだま分教室にて、教室に通う小学生から高校生に授業のアシスタントとして学習支援を行った。例えば、国語の授業ではディスカッションに参加し、理科の授業では実験を手伝った。また、こだま祭や調理実習等のイベントにも参加した。活動期間中は他の院内学級の教室見学も行った。

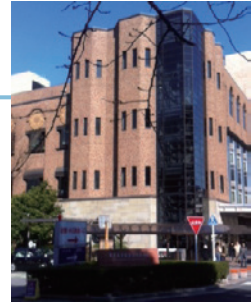
日 程： 2015年8月-12月、各自定められた日程

参加学生： 3名

活動場所： 本郷キャンパス・都立北特別支援学校 東大こだま分教室

備 考： 東大こだま分教室

<http://www.h.u-tokyo.ac.jp/kodama/top/top.htm>



東京大学医学部附属病院



こだま分教室

02. わかまつ学級の活動支援(新宿区立余丁町小学校)

東京女子医科大学病院の院内学級であるわかまつ学級にて、小学生の授業にこども達と一緒に参加した。また、おもちゃ美術館などのイベントにも参加し、おもちゃを使ったゲームでこども達と一緒に遊んだ。昼休憩は本校である新宿区立余丁町小学校の職員室で教職員と一緒に昼食をとりながら、院内学級や教育について幅広く学んだ。また、活動期間中は他の院内学級の教室見学も行った。

日 程： 2015年8月-12月、定められた日程

参加学生： 1名

活動場所： 東京都新宿区・新宿区立余丁町小学校

わかまつ学級(東京女子医科大学病院内)

備 考： わかまつ学級

<http://www.shinjuku.ed.jp/es-yochomachi/index1816.html>



わかまつ学級の先生方と



わかまつ学級の様子

03. 「学びのポイントラリー」地域教育支援参加

「学びのポイントラリー」という地域教育の実施、運営の手伝いを体験した。学びのポイントラリー運営事務局の幹事会に月に一度参加し、各地域や他団体の活動について話を伺い、学生の視点から意見を述べ、地域の学び推進機構のfacebookページ改善などに取り組んだ。また、教育学研究科の大学院学生が指導する学習ゼミナールや、リサイクルフェアなど学びのポイントラリーに登録している活動を見学した。

日 程： 2015年9月-2016年3月、定められた日程

参加学生： 1名

活動場所： 東京大学教育学研究科 他

備 考： 地域の学び推進機構

<http://www.chiiki-manabi.org/>



受付業務の手伝い

04. 在宅医療・介護体験プログラム

訪問看護ステーションビュートゾルフ柏の看護師による訪問に同行した。3名の患者宅を訪問し、認知症や褥瘡のケア、居住形態など、自宅で生活する要介護高齢者の生活状況を学んだ。看護師が患者やその家族と接する様子を間近で見ることで、医療の必要な患者との接し方を考えた。訪問の合間には、地域の高齢者向けに開催されているカレーの会に参加し直接高齢者と話をする機会を得るとともに、柏地域医療連携センターを見学し、市町村行政が取り組む在宅医療・介護連携施策の一端に触れた。

日 程： 2016/2/25(木)

参加学生： 1名

活動場所： 千葉県柏市

備 考： 柏市 長寿社会に向けたまちづくり～地域包括ケアシステムの具現化に向けて～

<http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/060200/p011002.html>

東京大学高齢社会総合研究機構 <http://www.iog.u-tokyo.ac.jp/>

東京大学医学部在宅医療学拠点 <http://chcm.umin.jp>

訪問看護ステーションビュートゾルフ柏 <http://neighborhoodcare.jp/>



柏地域医療連携センター

05. 東大病院入院中の難病の子どもを支援するドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンのインターンシップ

ドナルド・マクドナルド・ハウス東大を利用する患者家族を支援する活動に参加した。主に事務ワークやハウスキーピングをボランティアスタッフと一緒にを行い、広報活動としてミュージックビデオに出演した。また、全国のドナルド・マクドナルド・ハウスを運営する財団でのインターンシップやボランティア交流会への参加、他のハウス見学や東大病院の見学等、様々な活動を通してハウスや医療支援についての理解を深めた。

日 程： 2015年9月-2016年2月、各自定められた日程

参加学生： 5名

活動場所： 本郷キャンパス・医学部附属病院隣接

ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン 東大ハウス

備 考： 東大ハウス

<http://www.dmhcj.or.jp/house/list/todai.html>



ハウスロビーで参加者全員と



東大病院の見学

06. TSCP学生委員会による本学低炭素キャンパス活動

東大サステイナブルキャンパスプロジェクト(TSCP)学生委員会スタッフとして職員と共にTSCP活動に参加した。具体的には、地下共同溝の熱源や東大病院屋上の熱供給機器などのエネルギーを消費するシステムの見学やTSCP定例会への参加、日本最大級の環境展示会エコプロダクツへの出展およびその準備を行った。エコプロダクツに来場する子どもから高齢者まで幅広い年齢層にTSCPの紹介が行えるよう、パネル作りや説明方法を工夫することで、多くの人に関心を持ってもらえる機会となった。

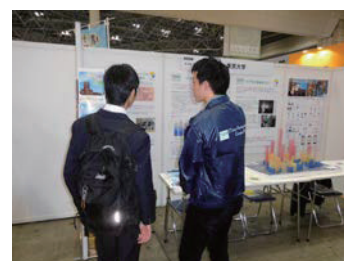
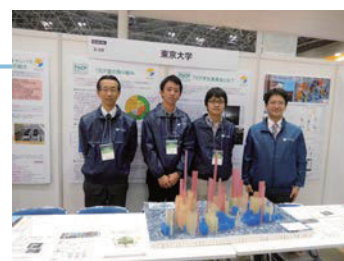
日 程： 2015年8月-11月、各自定められた日程

参加学生： 4名

活動場所： 本郷キャンパス・

サステイナブルキャンパスプロジェクト室

備 考： <http://www.tscp.u-tokyo.ac.jp/>



エコプロダクツ2015へ出展

07. 日本語教室でのボランティア

工学系研究科の日本語教室の初級、中級、上級いずれかのクラスに参加し、教員のアシスタントを行った。具体的には、日本語の新しい語彙や文法的な事項の補足説明、発音や会話のお手本、グループワークやディスカッションへの参加、文章作りに加わって会話の相手役となった。課外活動では、茶道や生け花体験、湯島の菊祭り、おしるこを食べるイベントなどに参加した。また、Japanese Lunch Tableでは留学生と日本語で会話をしながら昼食をとることで、楽しみながら留学生との交流を深め、国際的視野・感覚を養った。

日 程： 2015年10月-2016年1月、各自定められた日程
参加学生： 7名
活動場所： 東京大学大学院工学系研究科日本語教育部門
備 考： 日本語教室 <http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/>



授業のアシスタント



茶道体験

08. 超人口減少・超少子高齢化・財政難に直面する課題先進地域である隠岐島前において、教育の魅力化に取り組む公立塾：隠岐国学習センターで中高生の学習支援をしながら課題発見・解決をするプロジェクト

島根県の離島にある公営塾で、夏季休暇中の集中講座として授業のアシスタントをした。その中で公営塾が抱える課題を発見し、解決策を塾長や現地の行政担当者に向けて発表した。海士町のキンニャモニャ祭では屋台運営を手伝う、民謡パレードに参加するなどし、地元住民と交流しながら隠岐島前地域の文化を学んだ。

日 程： 2015年8月上旬-9月中旬、各自定められた日程
参加学生： 3名
活動場所： 島根県隠岐郡島前
備 考： 島前高校魅力化プロジェクト <http://miryokuka.dozen.ed.jp/>



キンニャモニャ祭に参加



学習センターの通り土間

09. 石垣島白保のサンゴ礁調査赤土流出のモニタリングと現地文化体験

石垣島白保のサンゴ礁調査に参加し、サンゴ礁生態系に影響を与えている赤土の海洋流入について、その実態をモニタリングした。具体的には、スノーケリングで海に潜り、海底に溜まった土砂を採取し赤土堆積量の調査を行った。また、赤土の流出を防ぐために畑の周りに月桃という植物を植えるとともに、数年前に植えた月桃がどのくらい成長し、赤土流出の防止に役立っているかについても調査した。現地滞在中はホームステイを体験し、白保の文化やサンゴ礁に対する地域の人々の考え方についても学んだ。

日 程： 2015/9/4(金)-9/7(月)
参加学生： 3名
活動場所： 沖縄県石垣市
備 考： 認定特定非営利活動法人 アースウォッチ・ジャパン
<http://www.earthwatch.jp>



海に潜って赤土採取



赤土堆積量の計測

10. 文化ワークショップを基本とした過疎・高齢地区のまちづくり 体験プロジェクト

富良野市のまちおこしに取り組むNPO法人とともに、演劇ワークショップに参加し、まちおこしの活動を体験した。演劇ワークショップでは俳優の指導を受けながら地元住民と交流し、まちおこしの現場体験では富良野市が関わってブランド化したワインやチーズなどの製造工場を見学した。また「富良野自然塾」の環境教育プログラムを体験した。

日 程：2015/9/1(火)~9/4(金)

参加学生：2名

活動場所：北海道富良野市

備考：一般社団法人 富良野デザイン会議 暮らしステーション

<http://kurashi-s-furano.x0.com/index.html>



ラベンダー畑「ファーム富田」の花畑

11. 少子高齢化最前線でみる日本の明るいミライ 山里でまなぶ、 はたらきかた、暮らしかた、生きかた体感プログラム

東京大学教育学研究科の牧野教授が指導した「若者よ田舎をめざそう」プロジェクトの実施主体である、株式会社M-easyと愛知県豊田市の共同による農山村振興事業を体験した。チェーンソーで間伐した木材を運び、作った薪を地域通貨に交換し、地元商店で利用するという、全国で40か所に広がる木の駅プロジェクトを体験した。また、地域活性化を中心になって進めてきた住民や豊田市旭地区に移住した住人らの話を聞き、新豊田市誕生10周年記念プロジェクト「ミライのフューチャレンジコンテスト」に参加して豊田市の取り組みを学んだ。

日 程：2016/3/17(木)~3/19(土)

参加学生：4名

活動場所：愛知県豊田市旭地区

備考：株式会社M-easy <http://www.m-easy.co.jp/>



間伐体験



旭地区の空き家活用事例の見学

12. 旧・博物館動物園駅の進化と再生提言を軸にしたアートによる 上野・谷中の地域活性化活動

上野の杜芸術フォーラムが行っている博物館動物園駅の保存・再生活動に参加した。具体的には、京成電鉄の上野駅～博物館動物園駅～日暮里駅でのフィールドワークや京成電鉄職員との意見交換会への参加、東京藝術大学関係者による会議を聴講した。また、K7s Green Galleryにて月に1度開催される定例会では、上野アートクロスと呼ばれている交差点の歴史の変遷をエスノマップという形でビジュアル化するプロジェクトに携わった。本活動では、上野の杜芸術フォーラムに関わる多くの関係者との交流を深めた。

日 程：2015年8月~2016年2月、各自定められた日程

参加学生：6名

活動場所：東京都台東区

備考：アートリンク上野-谷中 <http://artlink.jp.org/>



定例会の様子



K7s Green Gallery (定例会開催場所)

13. 困難を抱える子ども達の自然体験活動をサポート！～海で・山で・川で～

群馬県の赤城青少年自然の家、鹿児島県の大隅青少年自然の家のいずれかの活動に参加し、不登校・引きこもり等困難を有する青少年に対し、サポートリーダーとして支援を行った。赤城プログラムではネット依存傾向にある子どもと共に自然体験や宿泊体験を行った。大隅プログラムでは不登校に悩む子どもと共にゴムボートで漕艇を行った。活動を通して、自然体験活動に対する知識や困難を抱える子どもへの対応、コミュニケーション能力などサポートリーダーに必要なスキルを養った。

日 程： 赤城青少年自然の家:2015/8/17(月)-8/24(月)
大隅青少年自然の家:2015/8/22(土)-8/24(月)
参加学生： 2名
活動場所： 群馬県前橋市、鹿児島県鹿屋市
備 考： 独立行政法人 国立青少年教育振興機構
<http://www.niye.go.jp/>



トレッキング(赤城)



ゴムボート漕艇(大隅)

14. 子ども達の自然体験活動をサポートするリーダーにチャレンジ！～山・海・川・湖でダイナミックな体験を～

福岡県の夜須高原青少年自然の家の活動に参加し、青少年を対象に豊かな人間性を育むための自然体験活動事業にサポートリーダーとして関わった。具体的には、「背振山系〔基山(405m)、九千部山(847m)、石谷山(754m)、背振山(1054m)〕」88kmを縦走するプログラムに参加する小学校5年生から中学校2年生までの計50名を引率をする学生ボランティア13名のうちの1人として、子供たちの健康や安全、精神面のサポートを行った。

日 程： 2015/8/16(日)-8/23(日)
参加学生： 1名
活動場所： 福岡県朝倉郡
備 考： 独立行政法人 国立青少年教育振興機構
<http://www.niye.go.jp/>



縦走プログラム(夜須高原)

15. Documentary research for the French Embassy

在日フランス大使館の原子力部と政治部で就労体験した。各々のテーマに関して文献調査をし、結果を報告書にまとめた。数か月の間、週に数回程度大使館を訪問し調査に取り組んだ。大使館の業務を生で見て体験するだけでなく、フランス大使館の職場の雰囲気を感じ、英語・フランス語を用いて就業する機会となった。

日 程： 2015年8月-2016年3月、各自定められた日程
参加学生： 4名
活動場所： 東京都港区・在日フランス大使館
備 考： 在日フランス大使館
<http://www.ambafrance-jp.org/-Japonais->

16. Internship program at Lycee Franco-Japonais de Tokyo

フランス語によるインターナショナルスクールである東京国際フランス学園(Lycée français international de Tokyo: LFIT)で、高校生の学習指導のアシスタントをした。LFITの高校二年生はバカロレア取得にむけ、人文社会系と理数系のクラスいずれかで各自の興味関心に応じてグループ調査・実験に取り組む。本プログラムでは理数系のクラスでアシスタントを務めた。

日 程： 2015年9月-12月、定められた日程

参加学生： 1名

活動場所： 東京都北区・東京国際フランス学園

備 考： 東京国際フランス学園 <http://www.lfitokyo.org/index.php/ja/>



東京国際フランス学園外観

17. 学術出版の体験的学習

東京大学出版会の営業局、出版局、編集局での業務体験を行った。営業局では営業の現場へ同行し、出版局では印刷会社と製本会社を見学した。メインに活動した編集局では実際に著者から送られてきた原稿の校正を体験し、刊行予定の本の章や帯のタイトルを考案した。最終日には社内の会議にて自分が作ってみたい本の企画の概要を、内容や著者、ページ数、価格なども含め、発表した。

日 程： 2016/1/18(月)-1/29(金)

参加学生： 3名

活動場所： 駒場キャンパス・一般財団法人東京大学出版会

備 考： 東京大学出版会 <http://www.utp.or.jp>



誠製本工場見学



活動最終日の企画発表会

18. 「復興留学」～復興まちづくりの業務体験～

実際に釜援隊組織内部に入り、仕事場をともにして定例会や地域のイベントに参加した。メインの活動は、産業6次化プロジェクト「海まん」の販売戦略の策定で、6次化研究会のメンバーと催事等で実際に実演販売も行った。成果としては、研究会メンバーの今後の販売戦略に関する意思決定を助けるべく、ビジネスフレームワークを用いて、検討の必要がある事項を示し、地元ショッピングセンターにおける消費者構成・動向の分析と販売戦略の提案を行った。

日 程： 2015/8/17(月)-8/31(月)

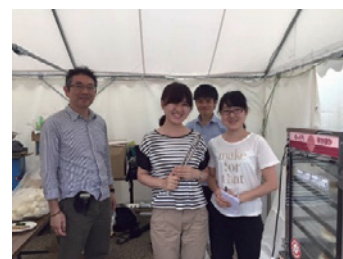
参加学生： 3名

活動場所： 岩手県釜石市近郊

備 考： 釜援隊：<http://kamaentai.org/>



釜援隊らじお部「かまらじ」でのリハーサル



イベント会場での「海まん」の販売

19. 明石市役所での就労体験事業

明石市の5つの部署で、業務を体験した。各日の体験部署は以下の通り。

1日目:政策室 事前課題の政策提案をブラッシュアップ

2日目:市民相談室 市民団体との懇談会に出席

3日目:市長室 市長との懇談

4日目:シティセールス推進室 プレミアム商品券応募者の名簿と番号確認

最終日:政策室 明石市立天文科学館見学、まとめ

日 程: 2015/8/24(月)~8/28(金)

参加学生: 2名

活動場所: 兵庫県明石市

備 考: 明石市 <https://www.city.akashi.lg.jp/>



案内業務の体験



市役所での企画発表

20. 未来を指向する地方自治体の活動への参加

三重県玉城町に2週間滞在し、役場の取り組みを体験した。プログラム前半は、町役場職員から町政や玉城町の概況に関する講義、他自治体からのICT視察説明会参加、他職員や地域住民と防災・まちづくり研修会に出席するなどした。後半には、病院や介護施設、町内に立地する大手企業の工場を見学し、実際に体を動かし保育所と農家で就労体験した。最終日の報告会では、プログラムでの学びや気づきを町長や役場関係者に向けて発表した。

日 程: 2015/8/17(月)~8/28(金)

参加学生: 2名

活動場所: 三重県玉城町

備 考: 玉城町役場 https://kizuna.town.tamaki.mie.jp/town_site/index/



幼稚園にて読み聞かせ



最終日の報告会の様子

21. 陶板複製名画美術館を体験する

徳島県鳴門市にある陶板複製名画を展示する大塚国際美術館で、来館者に向けたギャラリートークを体験した。まず、美術館設立の経緯や、美術館の教育普及活動、陶板について講義を受けた。夏休み企画イベントに参加し、美術館が取り組む様々な活動を体験しながら美術館への学びを深め、活動最終日には来館者に向けてギャラリートークをした。

日 程: 2015/8/7(金)~8/9(日)

参加学生: 10名

活動場所: 徳島県鳴門市 大塚国際美術館

備 考: 大塚国際美術館 <http://o-museum.or.jp/>



陶板を触って感触を確かめる



来館者にむけたギャラリートーク

22. 地方高校再建計画 (東京大学三四郎会 ミライウオーカープロジェクト)

文理開成高等学校にて、高校生に英語の夏期講習を行った。授業内容や指導法、自分が担当するクラスについては参加者間で決定し、高校生から勉強についての悩みを聞くことで英語の弱点を補強する方法を探った。授業が終わると教職員から学校運営について学び、過疎化の進む地方高校再建のための手段について意見交換を行った。また、夜は町内のママさんバレーなどに参加することで地域住民との交流も深めた。本プログラムでは、他の三四郎会企画と合同で事前勉強会、事後報告会を行った。

日 程： 2015/8/3(月)~8/7(金)
参加学生： 4名
活動場所： 千葉県鴨川市・文理開成高等学校
備 考： 東京大学三四郎会
<http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/>



授業中のアクティビティ



文理開成高校の教室からの風景

23. いざ地域活性化の先進地へ！！ (東京大学三四郎会 ミライウオーカープロジェクト)

地域活性化の先進的な取り組みを実施している島根県海士町、岩手県大槌町のいずれかの活動に参加し、まちづくりや地域活性化に関わる事業の運営・広報や企画立案に携わった。海士町では主にあまマーレで運営の手伝いやイベント立案を行い、地域でのヒアリングや役場の会議へ参加した。大槌町では大槌町役場総合政策課で復興レポートの改編やアンケート作成、議員研修の見学や町内で活動している団体等の訪問を行った。本プログラムでは、他の三四郎会企画と合同で事前勉強会、事後報告会を行った。

日 程： 2015年8月~9月、各自定められた日程
参加学生： 5名
活動場所： 島根県海士町、岩手県大槌町
備 考： 東京大学三四郎会
<http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/>



大槌町の海

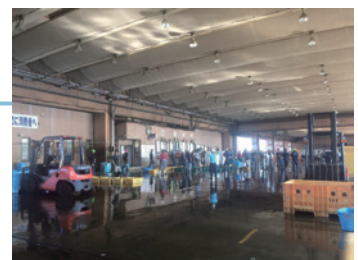


海士町の夕焼け

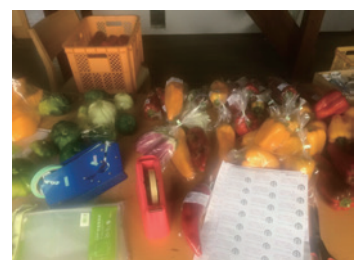
24. 食品流通を感じる～革新的な現場から～ (東京大学三四郎会 ミライウオーカープロジェクト)

千葉県内の農家や企業を訪問し、一次産業に関わる現場を幅広く体験した。具体的には、老舗店では銚子の歴史について学び、活魚の卸売市場の見学やレストランの手伝い等を行い、農場では野菜の収穫やパッキング、鶏の餌やりや草取りを経験した。活動を通して、食品流通に関わる様々な業種について理解を深めた。本プログラムでは、他の三四郎会企画と合同で事前勉強会、事後報告会を行った。

日 程： 2015/8/4(火)~8/16(日)
参加学生： 1名
活動場所： 千葉県銚子市、匝瑳市
備 考： 東京大学三四郎会
<http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/>



朝から活気の魚市場



野菜のパッキング

25. マーケティング視点での課題解決を実践で学ぶ (東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト)

株式会社インフォバーンにて、18歳選挙権や社会について考えることを目指しているNHK向けの案件「Ch18」のコンテンツ内容の提案を行った。実際に内部会議やNHK関係者との打ち合わせにも同席し、3名1組のチームで企画案を考え、活動最終日に発表を行った。活動中はCEOへのインタビュー、マーケティング講座への参加、その他マーケティング関連会社への訪問会にも参加した。本プログラムでは、他の三四郎会企画と合同で事前勉強会、振り返り、成果発表会を行った。

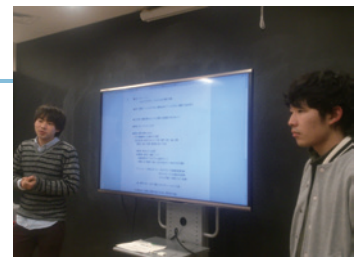
日 程: 2016/3/1(火)~3/14(月)

参加学生: 3名

活動場所: 東京都 広告代理店

備 考: 東京大学三四郎会

<http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/>



活動最終日の発表の様子

26. お持ちします、市長の鞆。ー現役市長と向き合う行政の現場ー (東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト)

市長が出席する内部の会議、来客対応、外部の講演、地域のお祭り、京丹後市外への出張などに同行した。出張では京都府や大阪市などの近隣の県を訪問した。市長が不在の際は各部署の見学や市民との交流を通じ、地方自治体が抱える問題点を多方面から考察した。本プログラムでは、他の三四郎会企画と合同で事前勉強会、振り返り、成果発表会を行った。

日 程: 2015年8月、各自定められた日程

参加学生: 2名

活動場所: 京都府京丹後市

備 考: 東京大学三四郎会

<http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/>



京丹後市役所

27. ビジネスの視点から最先端技術×ものづくりを実践する (東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト)

株式会社浜野製作所にて、水中チームとワークショップチームの2チームに分かれて活動を行った。水中チームでは水中ロボットを軸とした企画立案を行い、水中ロボットのプロトタイプの製作を行った。ワークショップチームでは小学校低学年以下の子供たち向けのイベントを企画し、東京スカイツリータウンで実際にワークショップを行った。本プログラムでは、他の三四郎会企画と合同で事前勉強会、振り返り、成果発表会を行った。

日 程: 2015/8/19(水)~9/4(金)

参加学生: 4名

活動場所: 株式会社浜野製作所

備 考: 東京大学三四郎会

<http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/>



地球深部探査船「ちきゅう」見学



東京スカイツリータウンでのワークショップ

28. 地域の魅力を自分なりの切り口で発信する！ (東京大学三四郎会 ミライウオーカープロジェクト)

株式会社MATCHAにて、訪日外国人観光客向けに渋谷の見所紹介記事の執筆を行った。具体的には、渋谷駅の構造の解説や道案内、隠れた渋谷の名所やコンセプト居酒屋、バーの紹介など様々なジャンルを扱った。また、記事執筆に伴って実際に渋谷の街に出向き紹介箇所の写真撮影などの取材活動も行った。本プログラムでは、他の三四郎会企画と合同で事前勉強会、振り返り、成果発表会を行った。

日 程： 2015/8/10(月)~8/21(金)
参加学生： 1名
活動場所： 株式会社MATCHA
備 考： 東京大学三四郎会
<http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/>



事務所内での交流会

29. 日本から世界へ！日本の強みで世界にバリューを～JICAの国内研修現場で国際協力を知る(東京大学三四郎会 ミライウオーカープロジェクト)

JICA国内事業部研修企画課にて、1. JICAの研修制度と国内奨学金との比較、2. JICAの研修制度と海外政府奨学金との比較、3. JICAの受け入れる研修員に配布するハンドブックの改訂、4. 2020年東京オリンピックに向けたおもてなしの施策についてコンサルティング業務を経験した。最終日にはJICA本部にて、国内事業部関係者の前でプレゼンテーションを行った。本プログラムでは、他の三四郎会企画と合同で事前勉強会、振り返り、成果発表会を行った。

日 程： 2016/2/1(月)~2/19(金)
参加学生： 5名
活動場所： 東京都千代田区・独立行政法人国際協力機構
備 考： 東京大学三四郎会
<http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/>



JICA本部にて事前研修



JICA国内事業部の皆様と

30. インターン事業の実施

学生が行うボランティア活動の支援を行った。具体的には、セミナー、PR力コンテストV-1等のイベントの企画・運営、東日本大震災にかかわる学生ボランティアの派遣やイベントの企画・運営、発行冊子の制作等を行った。ボランティア活動の支援を通して、支援の仕方や自分の携わった経験を広く社会に伝えていく力を養った。

日 程： 2015年8月~12月、定められた日程
参加学生： 1名
活動場所： 東京都港区・日本財団学生ボランティアセンター(Gakuvo)
備 考： 日本財団学生ボランティアセンター(Gakuvo)
<http://blog.canpan.info/gakuvo/>

31. インターン事業の実施

日本ファンドレイジング協会にて、広報業務を体験した。具体的には、寄付月間に参加する企業やNPOの情報整理、寄付月間キックオフイベントの運営を行った。また、寄付白書の校正やホームページ掲載用に記事の作成も行った。活動を通してNPO業界におけるネットワークを広げるほか、ファンドレイジングの基礎知識を学んだ。

日 程： 2015年8月-12月、定められた日程

参加学生： 1名

活動場所： 東京都港区・特定非営利活動法人 日本ファンドレイジング協会

備 考： 特定非営利活動法人 日本ファンドレイジング協会

<http://jfra.jp/>

32. 犯罪被害者支援に関する事業の実施

全国被害者支援ネットワークにて犯罪被害者支援の歴史、民間支援団体の役割と機能について学んだ。また、被害者支援都民センターの訪問や「犯罪被害者週間千葉県民のつどい」に参加し、実際に被害者や支援員との交流を行った。活動の最終日には被害者支援に関わる弁護士より「犯罪被害(者)と法」についてのレクチャーを受け、活動のまとめを行った。



ネットワーク関係者と

日 程： 2015/11/11(水)-11/17(火)

参加学生： 1名

活動場所： 東京都文京区・認定NPO法人 全国被害者支援ネットワーク

備 考： 認定NPO法人 全国被害者支援ネットワーク

<http://www.nnvs.org/>

33. ～海を、ジオを、南伊豆を小学生たちと体験しよう～

社会教育における事業に参加し、小学生向けのサイエンス教室の指導補助を行った。教室で行った実験は電気パンを焼いたり浮沈子の入ったペットボトルから浮沈子が沈む条件を考えるなど幅広く、一緒に実験を行いながらアドバイスや安全面のサポートを行った。教室修了後は南伊豆町の学力レベル向上に向け、教育委員会職員と意見交換を行った。



サイエンス教室の授業風景

日 程： 2015/8/10(月)-8/11(火)

参加学生： 1名

活動場所： 静岡県賀茂郡

備 考： 南伊豆町 <http://www.town.minamiizu.shizuoka.jp>



実験の様子

34. 加賀温泉郷まるごとキャンパス体験

加賀温泉郷全域をフィールドに、加賀のもつ文化、温泉、交通状況等を学び、加賀市に対して今後の観光施策を提案した。5日間で、九谷焼の史跡訪問や作陶、山中・山代・片山津温泉の総湯入湯、加賀橋立や加賀東谷の重要伝統的建造物群保存地区の見学、周遊バスや路線バス乗車などを体験した。プログラム終了後には、最終日のまとめのディスカッションに加え加賀が抱える観光入込客数の減少と生産人口の減少の課題に対する提案書を、体験したことを基に作成し、加賀市へ提案した。

日 程： 2015/8/3(月)~8/7(金)

参加学生： 8名

活動場所： 石川県加賀市近郊

備 考： 加賀市 <https://www.city.kaga.ishikawa.jp/>



九谷焼絵付け体験



加賀橋立地区の見学

35. みかんの収穫・販売体験から中山間地域の底力を考える

広島県江田島市にある柑橘農家で、温州みかん、はるみ、ネーブルオレンジなどの収穫や、選果作業を体験した。近郊のスーパーマーケット産直コーナーへの出荷に際しては、販促用品の自作や販売方法の工夫など、受入農家と協力して販売促進にも知恵を絞った。収穫などの農作業だけでなく受入農家でのホームステイのなかでリアルな田舎暮らしを体験し、また他の農家も交えての懇談会では集落内の農業経営の多様性や現在に至る経営の変化について聞き取ることができた。江田島市内の視察では、農業生産の背景になっている自然環境についての理解を深めた。以上の実体験を通じて過疎・高齢化の進む中山間地域での農業や生活の現状を把握し、その将来像について考えた。

日 程： ①2015/12/26(土)~12/29(火)、②2016/3/15(火)~3/18(金)

参加学生： 5名

活動場所： 広島県江田島市

備 考： ファーム竹本のホームページ

<https://sites.google.com/site/farmtakemoto>



みかんの収穫



農家の方々と

36. 測量船による海洋観測実地体験

海上保安庁の測量船「昭洋」に乗船し、その業務を体験した。具体的には、今回の航海の目的である海洋汚染および放射能調査のための試料採取(採水、採泥)や観測機器の整備といった観測業務の補助を行った。また、活動の後半では機関科や航海科といった船を運転し走らせる部署での当直も経験し、乗組員の指示のもと3000トンもの大きさの船を実際に動かした。活動中は9日間無寄港で船上生活を経験した。

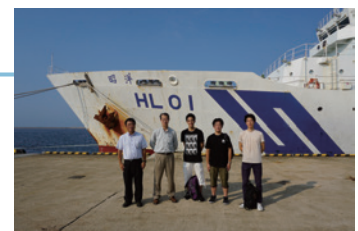
日 程： 2015/8/2(日)~8/11(火)

参加学生： 3名

活動場所： 日本近海

備 考： 海上保安庁海洋情報部

<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/>



出港前日伏木富山港にて



投錨作業見学

37. 農業・牧場作業体験@北海道

北海道美深町の農場・牧場で、農作業や牧場作業を体験した。農業体験では、キャベツ・絹サヤ・レタス・かぼちゃ・白菜・メロンなどの収穫、箱詰め・運搬、苗植えや草取りなども行った。牧場では、羊の餌、水、草やり、搾乳、放牧、出荷羊の体重測定、爪切り、虚勢など、羊に関わる様々なことを体験した。最終日には、1日美深町を案内して頂き、美深町長のお話を伺ったり、地元の観光名所を巡り、住民と交流を深め美深町の魅力に触れた。

日程：①2015/8/3(月)~8/12(水)、②2016/3/7(月)~3/18(金)

参加学生：8名

活動場所：北海道中川郡美深町

備考：美深町 <http://www.town.bifuka.hokkaido.jp/>
美深観光協会 <http://www.bifuka-kankou.com/>



絹サヤの収穫



エアリアル大会の運営補助

38. 農業・漁業体験と地域体験

前半は、深浦町の住民と交流し、深浦町役場の総合戦略課長から町の概要について説明を受け、副町長との会談や、第一次産業に関わる人達から話を伺った。深浦町の小中高生とも交流し、弁論大会も見学した。また、自分達の足で歩いて、町の歴史や地理を学び、まちづくり応援隊の人達と町の活性化について話し合った。後半は、農業を重点的に体験した。きゅうり、毛豆、リンゴの収穫や除草、小麦の種まきを見学した。夜も連日農業・漁業に携わる人達から、どのような要望を国に対し持っているのか、深浦町の現在の問題点や改善点を一緒に考えた。

日程：2015/8/24(月)~9/6(日)

参加学生：2名

活動場所：青森県西津軽郡深浦町

備考：深浦町
<http://www.town.fukaura.lg.jp/index.html>



小学校での交流会



リンゴの収穫

39. 希望学プロジェクト ふくい体験プログラム

若狭コース、越前コースのいずれかに参加した。若狭コースでは、魚市場や関西電力美浜発電所見学、養殖フグの餌やりやカヤック体験等を行った。越前コースでは、自治体訪問や木育施設での業務体験、イノシシの解体や野菜集荷等を行った。いずれのコースにおいても多くの地元住民との交流を通し、福井の産業や文化について理解を深めた。

日程：若狭コース:2015/8/20(木)~8/25(火)
越前コース:2015/8/27(木)~9/1(火)

参加学生：9名

活動場所：福井県嶺北地区、嶺南地区

備考：福井県庁 <http://www.pref.fukui.jp/>



民宿関係者と(若狭コース)



イノシシの解体(越前コース)

40. 癒しの森の森林管理～おじいさんは山へ柴刈りに～

夏の部では、柴刈りと柴垣づくり、芝刈り、薪割り、研究所の看板製作、調査用の杭の加工、演習林内の生態調査ビデオの分析を体験した。柴刈りは、森林環境の維持のために放っておくと繁茂してしまう森林下部の植物を刈り取り、その柴を用いて柴垣という新しい景観づくりをした。冬の部では、腐葉土が生息に適さないアカマツの林を守るため、落ち葉をかき集め焚き火で燃やすという落ち葉焚きの作業を体験した。森を歩く時に聞こえる鳥のさえずりや、雨や雪の音、人の立てる音がとても心地良かった。

日 程：①2015/9/7(月)～9/8(火)、②12/22(火)～12/23(水・祝)
参加学生：2名
活動場所：山梨県南都留郡
東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林
備 考：富士癒やしの森研究所 <http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/fuji/>



柴垣づくり



落ち葉焚き

41. 森が社会に貢献するー持続可能な森づくりへの挑戦ー

夏の部では、まず森林経営の概要を学び、林道の障害物や森林の状態を見て回る巡林や伐採する木を選ぶ収穫調査を体験し、選定された木の印つけや直径を測定した。研究対象となる区域の木の計測をする試験地調査も体験した。冬の部では、業者に依頼した伐倒木がしっかり切られているかのチェック作業(伐採監護)や、今年度施業する林班を林種に区分していく林種区分や、今年どれほど伐採できるのかを判断する蓄積調査も体験した。また、1年に1度だけ出材する銘木市も見学することができた。

日 程：①2015/8/17(月)～8/21(金)、②2016/1/15(金)～1/22(金)
参加学生：2名
活動場所：北海道富良野市
東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林
備 考：附属演習林 <http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/hokuen/>



収穫調査で伐採する木の印つけ



雪中の伐倒根にスタンプの打ち込み

42. 海のフィールドワーク体験活動

埼玉大学理学部の実習に参加し、ウニの発生の観察、灯火採集、磯での生物採集、船に乗りプランクトンネットを使ったプランクトン採集、採集した動物やウニの発生過程のスケッチ等を行った。実習終了後には研究棟の施設見学や油壺マリンパークの見学も行った。検索表を使った動物調査や、研究棟で最先端の研究に触れることで、海や海洋生物について幅広く学んだ。

日 程：2015/8/26(水)～8/28(金)
参加学生：1名
活動場所：神奈川県三浦市
東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所
備 考：附属臨海実験所 <http://www.mmbs.s.u-tokyo.ac.jp/>

43. 伊豆の体験活動—南伊豆という一地域との連携に学ぶ—

夏の部では、木と木の間隔をよくするため、不要な杉の木を伐採し、丸太状にしてクレーン車に積み運搬し、その丸太を割って材木にするという一連の林業作業を体験した。初めて使うチェーンソーは重く、伐採に当たっては、受け口と追い口という二つの切れ目をいれなくてはならず、非常に難しかった。冬の部では、夏に解体し皮と脂肪だけになっている猪と鹿の皮から脂肪を削ぎ落として洗浄し、ミョウバン液につけるといって革製品を作る作業の一部を体験した。また、甘夏の接ぎ木も体験した。

日 程：①2015/9/11(金)–9/13(日)、②2016/1/16(土)–1/18(月)

参加学生：5名

活動場所：静岡県南伊豆町近郊

備 考：樹芸研究所 <http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/jyugei/>



チェーンソーでの杉の伐採



夏に捕獲した猪の皮の洗浄

44. 森林・水・土砂の長期モニタリング調査体験

生態水文学研究所の研究林で、80年以上もの長期間継続している森林・水・土砂の長期モニタリングを体験した。研究林内の観測施設等を見学した後、環境省の全国規模の生態系モニタリング調査プログラム「モニタリング1000」の作業、渓流水質調査のための採水作業、こうもり調査を体験した。

プログラム後半は、森林流域から流出する土砂量の測定や、砂出し(ダムにたまった土砂の排出)、気象水文観測機器メンテナンスとデータの回収・読み取り作業など、80年以上続けられているモニタリングを体験した。水文学の基礎を学び、データを継続的にとる大切さに気が付いた。

日 程：2015/7/20(月)–7/24(金)

参加学生：1名

活動場所：愛知県瀬戸市 大学院農学生命科学研究科附属演習林
生態水文学研究所

備 考：赤津研究林 <http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/eri/>



定期採水



砂出し

45. 糠千むらづくりプロジェクト—空き家改修を通じて地域づくりを学ぼう！—

長野県木島平村で、他大学生と一緒に空き家改修に取り組みながら地域住民と交流した。初日に村の散策や地域づくりに関する講義を受講し、2日目からグループで交代して空き家の床板張りや周辺の草刈りを行った。4日目に開催した地域住民との交流会である「ぬかふえ」は空き家改修作業後の夜に、企画や周知方法などを話し合っ準備した。ぬかふえでは参加学生が一人ずつプログラムの成果を発表し、地域の方とのバーベキューを楽しんだ。

日 程：2015/8/26(水)–8/30(日)

参加学生：3名

活動場所：長野県木島平村糠千地区

備 考：農村文明塾 <http://nouseonbunmei.jp/>



空き家の床板張り



学生が企画した「ぬかふえ」で交流

【海外プログラム】

01. キャンパスツアー・学生交流訪中団

北京大学、清華大学、復旦大学を訪問し、学生との交流では、大学生活から政治体制の問題まで様々な討論を通して、日中間の国の認識の違いや共通点を見出すことができ、友好を深めた。また、日本大使館やTBS、弁理士事務所、富士通、キューピー、ドリームインキュベータ、電通、森ビル等を訪問し、中国でビジネスを展開することの難しさと面白さを、ハード面からもソフト面からも知ることができた。

日 程： 2016/3/16(水)-3/25(金)

参加学生： 9名

活動場所： 中華人民共和国 北京、上海

備 考： 東大北京校友会・上海銀杏会

<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/community/list.html>



キューピー



森ビル

02. 上海および上海近郊の地方都市を中心とした国際交流体験活動

南京大学、上海交通大学、復旦大学等6大学を訪問し、主に日本に興味がある学生との交流であったため、熱意の高さと日本語のうまさに驚かされた。企業訪問では、日東紡工場、東京大学無錫代表処、IP Forward(模倣対策弁護士事務所)、電通、森ビルや、上海領事館を訪問し、現地で活躍される多くの日本人から話を伺い、上海のエネルギーを感じた。卒業生との懇親会では、将来の可能性は自分次第で無限に広がるという希望が持て、自分の将来を見つめ直すきっかけとなった。

日 程： 2016/3/16(水)-3/25(金)

参加学生： 9名

活動場所： 中華人民共和国 上海と近郊

備 考： 上海銀杏会・東大北京校友会

<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/community/list.html>



日東紡



上海銀杏会の皆様との懇親会

03. シンガポールでビジネスを学んでみよう

銀行・ベンチャー企業・商業施設・メーカー・研究施設・病院・コンサルティング会社・法律事務所・ヘッジファンドなど19社を訪問し、組織の大小に関わらず、自由と高いリターンを得るためには人一倍考えて努力し、チャレンジする事の重要性を再認識した。更に、シンガポールの歴史や社会経済の理解を深め、ビジネス事情を学ぶことができた。最終日には、プログラムを通して学んだことを、淡青会メンバーの前で発表した。

日 程： 2015/8/22(土)-8/30(日)

参加学生： 5名

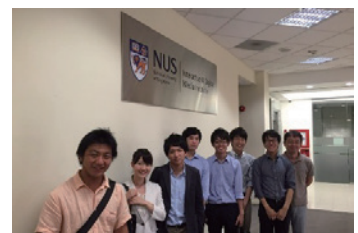
活動場所： シンガポール

備 考： 淡星会

<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/community/list.html>



Astroscale



シンガポール国立大学 IDMI

04. 医学と平和

カンボジアのプノンペン、シェムリアップを拠点にし、紛争がもたらした保健制度破壊とその後の復興について学んだ。プノンペンでは、国立母子保健センターと、技師装具士学校並びにWHOカンボジア事務所を訪問し、それぞれの場所で活躍している邦人や現地職員より、これまでの取り組みや今後の課題について話を伺った。また、残虐な大量虐殺を後世に伝えるために作られたトゥールスレン博物館を見学し、不安定な政治がもたらした抑圧と悲劇の大きさを目の当たりにした。シェムリアップでは、JMASの事務所を訪問し、地雷・不発弾撤去現場を見学した。

日程：2015/8/3(月)~8/9(日)

参加学生：5名

活動場所：カンボジア プノンペン近郊

備考：東京大学医学系研究科国際地域保健学教室

<http://www.ich.m.u-tokyo.ac.jp/>



不発弾処理現場



現地学生との交流

05. 新興国インドでのマーケティングリサーチ

「インドの生活からみる日系企業参入の可能性」というテーマで活動した。日本で事前に調査・ディスカッションを行った結果、インドの健康問題にフォーカスし、人工甘味料かフルーツグラノーラのどちらかを提案しようというところまで仮説を立てた。スーパーマーケット、商店街、家庭訪問での調査や、インド人社員とのディスカッションで、インドの食事スタイルや健康志向に対する知識を深め、19時頃の間食として食べるクッキー型に固めたフルーツグラノーラを提案することで意見が固まり、最終日にプレゼンテーションを行った。

日程：2015/8/24(月)~8/28(金)

参加学生：4名

活動場所：インド ニューデリーと近郊

備考：infoBRIDGE <http://www.infobridgeasia.com/>

インド赤門会

<http://www.indiaoffice.dir.u-tokyo.ac.jp/jp/>

akamonkai/index.html



家庭訪問での調査



インド赤門会主催による交流会

06. TOPS (Tokyo Oxford Programme of Summer)

前半の2週間は、オクスフォード大学のクライスト・チャーチ・カレッジで、最前線で活躍されている教授陣から古典学・法学・フランス文学の授業を受け、数多くの講演も受講した。後半の2週間は、エジンバラ大学やケンブリッジ大学での学会に参加したり、ロンドンでは法律事務所や裁判所等を見学し、日本とイギリスでは法曹制度が大きく異なることを学んだ。最終日には、各自のテーマに沿った学習成果のプレゼンテーションを行った。

日程：2015/8/10(月)~9/6(日)

参加学生：9名

活動場所：イギリス オクスフォード大学、他

備考：オクスフォード大学 クライスト・チャーチ

<http://www.chch.ox.ac.uk/>



少人数での授業形態



宿泊先 Liddell Building の外観

07. 英国ロンドン、欧州ビジネスセンター体験活動

5日間で数々の企業や大学(日立レール、Camellia、欧州復興開発銀行、日本航空、ケンブリッジ大学、在英日本大使館、Bank of America Merrill Lynch、IASB、JR東海、三井造船)を訪問した。特に日立レール・日本航空は、実際に車両のメンテナンス現場や着陸直後の機体の中を見学し、普段見ることのできない場所や作業を見ることができた。BAMLでは外国人社員に対し、「癒し」をテーマに日本の文化・宗教・観光について英語でプレゼンテーションを行った。また、卒業生との交流の機会も数多く設けられた。

日 程: 2015/8/24(月)~8/28(金)

参加学生: 10名

活動場所: イギリス ロンドン

備 考: 英国赤門学友会

<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/community/list.html>



日立レール車両基地見学



英国赤門学友会の皆様と

08. VE_italia・Veneto Experience

ヴェネト州でフィールドワークを行うと同時に、建築物を通してデザインの原点、また「場の力」に対しての批評の視点を養うことを目的としている。街を散策する時は頭ではなく体を使って都市そのものを体験し、地図や携帯電話に頼らず自分の体力と記憶とで街の構造やデザインを見学した。デザインをする建築家、それを造る職人、工事に携わったマネージャーなど多くの人が建築物に関わっており、それが集まってできたのが、私達が日常的に当たり前のように消費している都市という空間だと気付いた。「場の力」は、今までその都市が積み上げてきた歴史的な時間の流れと、訪れた人に様々な記憶や感情を呼び起こす力、外部の都市空間が自分の内部空間になっていく過程全てを含んでいることを学んだ。

日 程: 2016/3/12(土)~3/25(金)

参加学生: 11名

活動場所: イタリア ヴェネト州

備 考: Veneto Experience <http://www.venetoexperience.com/>



Tomba Brion



宿泊寮

09. フランスEcole Polytechniqueでキャリア形成の可能性を追求する(原則として理系)

フランスにおける理系グランゼコールの最高峰であるEcole Polytechniqueに滞在し、学生との直接交流などを通してフランスの高等教育を体験した。キャリア形成を目的とした見学会では、研究所、国際機関、企業、メディアなど幅広い分野の職場を訪問し質疑した。UNESCOでは危機管理と地球科学分野について学んだ成果を発表し、フランス赤門会では1ヶ月間現地で体験し感じたフランスの高等教育の感想を発表した。また、イノベーションが社会に果たす役割を肌で学ぶため、コロンビア大学(アメリカ)の学生と共同で48時間ハッカソンに挑み、ものづくりの企画やプロトタイプを作成をした。

日 程: 2016/3/1(火)~3/31(木)

参加学生: 10名

活動場所: フランス パリ

備 考: Ecole Polytechnique <http://www.polytechnique.edu/>



UNESCO見学



Ecole Polytechnique 校舎

10. ハーバード大学医学部研究室の訪問・見学

本学卒業生が主宰するハーバード大学医学部研究室を訪問・見学した。Massachusetts General Hospitalをはじめとし、Harvard School of Public Health、Beth Israel Deaconess Med Ctr.、Brigham and Women's Hospitalに所属する12名の先生から、経歴、研究内容、研究予算、研究倫理などに関して自由に質問して話を伺った。最終日には参加学生各自の学びを共有し、日米の研究環境の違いについてディスカッションをした。

プログラム期間中は学生同士で携帯電話の地図アプリを駆使して研究室を訪問し、自炊しながら共同生活をするなど、普段の生活とは違う経験を得た。

日 程： 2015/8/10(月)~8/17(月)

参加学生： 6名

活動場所： アメリカ マサチューセッツ州

備 考： ハーバード大学医学部 <http://hms.harvard.edu/>



ハーバード大学医学部本部



プログラム企画者の卒業生と

11. Work experience in the international venture business in Boston

ボストンにあるベンチャー企業、Global Project Design(GPD)で10日間のインターンシップを体験した。プロジェクトマネジメントやGPDの商品である“Team Port”の扱い方の講義を受け、Team Portを用いて解答した課題結果をGPD役員に向けてプレゼンテーションした。主な活動場所であるMITキャンパス内散策、現地学生との交流やGPD社員自宅でのバーベキューを通じて、アメリカ文化を体験することができた。

日 程： 2015/8/10(月)~8/20(木)

参加学生： 2名

活動場所： アメリカ マサチューセッツ州

備 考： Global Project Design <http://www.gpdesign.com/>



GPD社長の講義



プログラム終了後の懇談会

12. Woods Hole Oceanographic Institution

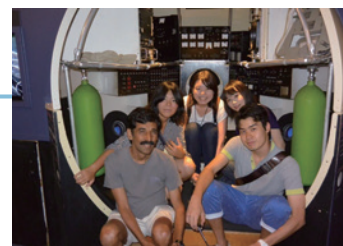
世界有数の海洋研究所であるウッズホール海洋研究所(Woods Hole Oceanographic Institution : WHOI)で、最先端の海洋研究に触れた。海洋工学、海洋生物や地質学を専門とする研究者を訪問し、研究について話を伺った。訪問した研究者の厚意で、観測船Knorrと潜水艇Alvinを見学することもできた。プログラム後半はボストンへ移動し、MITメディアラボを訪問した。なお、ウッズホールではWHOI職員の自宅にホームステイし、アメリカの生活を体験した。

日 程： 2015/8/2(日)~8/7(金)

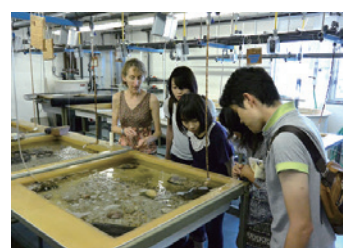
参加学生： 4名

活動場所： アメリカ マサチューセッツ州

備 考： ウッズホール海洋研究所 <http://www.whoi.edu/>



水中ロボット専門のHanumant Singh先生と



海中生物専門のStace E. Beaulieu先生のラボ

13. ロサンゼルスにおける（日系・非日系）移民の多様性を学びドキュメンタリー・フィルムを製作する

活動はアメリカに渡る前の事前学習から始まり、ロサンゼルスの日系人社会について資料を読んで歴史を学び、テーマ決めの参考にした。「和菓子から見る日系社会」「日系アメリカ人にとって継承語の日本語とは」をテーマと決め、下調べ、ストーリー構成、取材対象者へのアポ取り・調整、質問項目作成と活動を進め、アメリカでは毎日取材を行った。帰国後は2ヶ月かけて編集作業を完成させ、ドキュメンタリー・フィルムを制作した。

日 程： 2015/8/23(日)~8/30(日)

参加学生： 3名

活動場所： アメリカ カリフォルニア州

備 考： 南加東大会 <http://www.nanka-todaikai.com/>



現場でのインタビューと撮影



14. オーガニック農場での Sustainable agriculture 体験（米国）

毎日、8時から13時まで農作業、14時から15時までハウスワーク(家事手伝いや雑務)を行った。その日に必要な作業は朝食後に適宜振り分けられ、作業の内容は毎日のように変わるほど多様だった。夏の農作業は、作物(ニンジン、セロリ、バジル、オクラ、トマト、ジャガイモ等)の収穫、花束作り、雑草取り、馬糞や牛糞、鶏卵の回収、ニワトリやヤギの餌やり、ヤギの爪切り、牛の乳搾りなどが主な作業で、毎週火曜日はマーケットの日ということで、買い物客の応対もした。基本的に午後と週末は自由に活動した。

日 程： ①2015/8/16(日)~8/29(土)、②2016/2/28(日)~3/12(土)、
③2016/3/13(日)~3/26(土)

参加学生： 9名

活動場所： アメリカ ニュージャージー州

備 考： さつき会アメリカ <http://satsukiamerica.todai-alumni.jp/>
NY銀杏会 <http://www.ny-ichokai.org/>



各国からのボランティアと



お世話になった皆様と

15. 有機農場での Community Supported Agriculture 体験（米国）

毎朝8時からのミーティングで、当日の仕事が割り当てられ、お昼休憩を1時間挟み17時まで農作業を行った。仕事の内容は毎日異なり、桃やリンゴ、ブルーベリーなどの果物から、ジャガイモやトマト、ニンニクなど幅広く収穫した。家畜の世話は、豚やヤギ、羊、ニワトリなどへの餌やりと、ヤギや羊は檻を開放し移動させたり、鶏小屋の掃除も行った。後半の1週間は、現地のYale大学の新生と一緒に農作業を行い、交流を楽しんだ。

日 程： 2015/8/16(日)~8/29(土)

参加学生： 2名

活動場所： アメリカ コネチカット州

備 考： NY銀杏会 <http://www.ny-ichokai.org/>



桃の収穫



羊の誘導

16. アメリカで事業をすることの素晴らしさとチャレンジ（内側からアメリカ社会をみてみよう）

今回の活動では米国社会を様々な視点から観察する事を目的に、現地に在住し事業・研究を展開している卒業生を訪問して様々な話を伺い、ディスカッションを行った。各卒業生の経験に基づいた話はとても興味深く、進路や将来の方向性に示唆を与えてくれた。また、メジャーリーグ観戦やシカゴオーケストラの演奏を聞きながらのピクニックなど、現地での代表的な余暇の過ごし方を体験し、ワークライフバランスについても考えた。

日 程： 2015/8/3(月)~8/7(金)

参加学生： 10名

活動場所： アメリカ イリノイ州

備 考： シカゴ赤門会

<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/community/list.html>

さつき会アメリカ <http://satsukiamerica.todai-alumni.jp/>



シカゴ大学でのディスカッション



コンサート会場でのピクニック

17. 世界の情報発信の中心地、ニューヨークの脈動を体感してみよう

在米の卒業生から訪問企業の事業内容や、海外で働く経験談、学生のうちにどうすべきかなどのアドバイスを伺い、ディスカッションを行った。訪問先は、ニューヨーク証券取引所、野村証券、ミキハウス、トムソンロイター、コロンビア大学、Debevoise & Plimpton、Tiger Pacific Capital、Criminal Court of the City of NY、プリンストン大学、国連、JETROなどで、現地の大学生との交流も組み込まれ、最終日の懇親会では各自がプレゼンテーションを行った。

日 程： 2015/8/19(水)~8/25(火)

参加学生： 12名

活動場所： アメリカ ニューヨーク州

備 考： NY銀杏会 <http://www.ny-ichokai.org/>



ニューヨーク証券取引所



コロンビア大学

【研究室プログラム】

01. 再生医療の研究開発に触れる

東大病院口腔外科ではティッシュ・エンジニアリング部と連携して骨・軟骨のトランスレーショナルリサーチに取り組んでいる。本活動では、再生医療の研究開発の現場を見学し、細胞培養、再生組織作製などを体験した。具体的には、軟骨細胞を培養し、培養した軟骨細胞を薄く切断して染色液で見やすくし、顕微鏡下でどのくらい組織が成長しているかを確認した。

日 程： 2015年9月-12月、定められた日程

参加学生： 1名

活動場所： 本郷キャンパス 医学部附属病院ティッシュエンジニアリング部

備 考： 東京大学大学院医学系研究科 軟骨・骨再生医療寄付講座

<http://square.umin.ac.jp/ct-e/t-e/index.html>

02. 「医学の知」の体験－手術とは何か？体内臓器を探ってみましょう！

初日は、教授回診と採血実習の見学や附属病院内の研究室、集中治療室を見学した。また、糸結びの指導も受けた。2日目以降は、実際の手術（胃癌・乳癌・小腸癌）を見学した。通常であれば絶対に入る事のできない手術室の中で、どのような事が行われているのか間近で見ることができ、医療技術の高さと医療に携わる人々の大変さが身にしみてわかった。手術を通した若手指導も目にし、ノウハウはこうして伝えられていくのだと知った。



東大病院の手術見学

日 程： 2015/8/31(月)-9/3(木)

参加学生： 4名

活動場所： 本郷キャンパス 医学部附属病院

備 考： 東京大学医学部附属病院 消化管外科学

http://www.h.u-tokyo.ac.jp/patient/depts/ses_md/index.html

03. 「医学の知」の体験－臨床の死生学

初めの2日間は、キューブラー・ロス著「死ぬ瞬間」を予め読んできた上で、その死の受容をめぐる「5段階」について考察した。3日目は医療と社会制度の関係について専門家から講義を受け、ディスカッションを行った。4日目は、王子生協病院の緩和ケア病棟を見学し、実際にそこで働く看護師、メディカルソーシャルワーカーから話を伺った。5日目は、各自がプログラムを通して考えたことなどの成果を発表した。



「死ぬ瞬間」読後のディスカッション

日 程： 2015/8/31(月)-9/4(金)

参加学生： 3名

活動場所： 本郷キャンパス 医学部

備 考： 東京大学大学院医学系研究科 医学教育国際研究センター

<http://www.ircme.m.u-tokyo.ac.jp/>



緩和ケア病棟の従事者からの講義

04. 特許データベースを用いた生命科学分野の研究活動の検証

大学で出願される特許の約4割はライフサイエンス分野となっており、特許教育は大学教育でも不可欠となってきた。本活動では、特定の研究分野で、出願された特許群をレビューすること、また特許データベースをソースとした情報加工を行うことによって、どのような情報が抽出できるか、また抽出された情報を統計解析にかけてどのようなことが検証できるかを体験してみることに、特許情報を活用したイノベーション研究を体験した。

日 程： 2015年9月-2016年3月、定められた日程
参加学生： 1名
活動場所： 柏キャンパス 新領域生命科学研究棟
備 考： 東京大学大学院新領域創成科学研究科バイオ知財コース
<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/bioipcourse/learning/index.html#taiken>

05. 農地環境サンプルの放射性核種の検出と測定

福島放射能汚染について、震災とそれに続く放射能汚染や東大の取り組み、森林の汚染の状態と今までの研究の進捗についての講義を受け、実際に福島で採取された土・植物に含まれる放射性物質の検出を行った。手順としては①資料を計測用の瓶に詰める②計測機器で放射性核種が出す放射線を検出する③検出されたエネルギーから放射性核種を推定する、という流れで行った。活動を通して、測定する農産物等の処理、検出、測定を行うことで農地環境の実態に触れた。



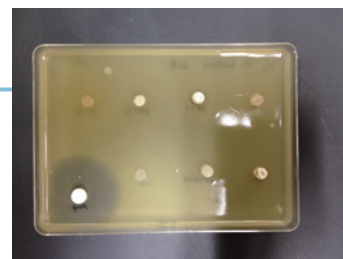
放射能汚染についての講義

日 程： 2015/8/10(月)
参加学生： 3名
活動場所： 弥生キャンパス 農学部2号館
備 考： 東京大学農学部の復興支援
<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/rpjt/index.html>

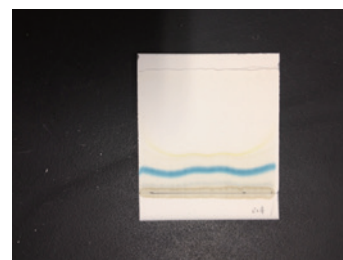
06. 微生物から有用な天然有機化合物を探索する

身の回りに存在する微生物を収集して、その秘めた機能を体験することで微生物の大切さ・不思議さを体感した。具体的には、土壌など環境試料中の微生物を分離して、その多様性を分子生態学的方法で調べるとともに、肉眼や顕微鏡で観察した。また、機能面でも多様性に富んでいる微生物が抗菌物質など有用物質の「生産能」を有していることを確認した。活動中は教員や大学院学生の指導の下、高分解能質量分析計などの最先端の分析機器を実際に使用した。

日 程： 2016/2/29(月)-3/4(金)
参加学生： 3名
活動場所： 弥生キャンパス 生物生産工学研究センター
備 考： 東京大学生物生産工学研究センター
<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/biotec-res-ctr/>



抗菌物質の検定



抗菌物質の分離

07. 脳・身体と精神のシステム論的研究への誘い

かつて心と身体(からだ)は別々のものとして扱われてきたが、脳科学をはじめとした近年の科学の目覚ましい発展によって、それらが文字通り、切っても切れない関係にあることが明らかになってきた。心と身体はどのような関係にあるのか、それらを良い状態に保つには、どういった方策が考えられるか、といった問題に科学的に迫る時代が到来し、そうした問題に対して、様々な角度から研究が進められている。本活動では、そのような日々の研究の雰囲気を実際に体験した。具体的には、実験に立ち会ったり、研究ミーティングや論文紹介に参加するなど、各種のアクティビティに参加した。

日 程: 2015年8月-2016年3月、各自定められた日程
参加学生: 6名
活動場所: 本郷キャンパス 教育学部棟
備 考: 東京大学大学院教育学研究科 身体教育学コース
<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tkweb/>



事前オリエンテーション

08. クラスタ計算機の試作と並列計算

並列計算が実際にどのように行われているかをハード、ソフトの両面で学び、そのスキルを獲得した。具体的には、前半の1週間でパソコンの分解や組み立て、コンピュータクラスタの構築、MPIによる並列化等を行った。後半の1週間では多層パーセプトロン型のニューラルネットワークによる関数近似のプログラムを用いて、理論とプログラムを対応させながら理解を深めた。活動中は教員、大学院学生、留学生との交流を通し、多くの刺激を受けた。

日 程: 2016/3/7(月)-3/17(木)
参加学生: 3名
活動場所: 柏キャンパス 環境棟
備 考: 東京大学大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻
奥田研究室 <http://www.multi.k.u-tokyo.ac.jp/>



活動で使った教室



活動最終日の発表の様子

09. 水循環・水資源研究短期体験

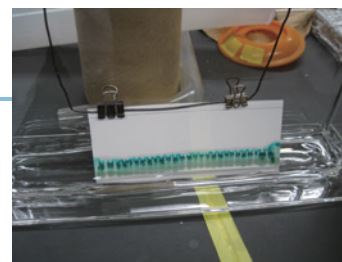
沖研究室はグローバルな水循環と世界の水資源、水の安定同位体比と古気候、気候変動の影響評価と適応策、アジアモンスーン変動と食料生産、仮想水貿易とウォーターフットプリント、水環境のリモートセンシングなどに関して幅広い研究活動を繰り広げている。その中で、水循環・水資源について、課題設定、問題の切り分け、文献の探索とレビュー、資料の収集、解析/実験ツールの整備、試行錯誤、結果のとりまとめ、発表といった一連の流れを実際に体験した。

日 程: 2015年9月、定められた日程
参加学生: 1名
活動場所: 生産技術研究所
備 考: 東京大学生産技術研究所 沖研究室
<http://hydro.iis.u-tokyo.ac.jp/indexJ.html>

10. 機能分子をつくってみよう(機能性錯体化学研究室短期体験)

光合成のクロロフィルやヘモグロビンのヘムの基本骨格であるポルフィリンと、青色・緑色の染料・顔料、コピー機の電荷発生剤、光メモリー材料などとして利用されているフタロシアニンなどの分子を使って、①生体内のビタミンCを調べることができる蛍光プローブ、②分子を用いた光メモリ、③分子を用いた光触媒、④生命誕生の謎の探求等に関する研究を行った。本活動は教員や大学院学生の指導の下、研究室で過去に提出された修士論文の研究を再現する形で行われた。

日 程： 2016/2/27(土)-3/7(月)
参加学生： 1名
活動場所： 生産技術研究所
備 考： 東京大学生産技術研究所物質環境系部門
石井研究室 <http://www.k-ishiiilab.iis.u-tokyo.ac.jp/>



TLCで一斉に分離



合成作業

11. 持続性循環資源工学研究室短期体験

電気炉を用いた金属の高温処理、真空機器の取り扱い、化学分析などを体験した。また、広く用いられている顕微鏡や分析器のほかに、研究室独自で開発した装置などにも触れ、科学分野への知見を広めた。また、実験以外にも、研究打ち合わせや進捗報告会、リサイクル工場の見学ツアーなどへの参加を通して、研究活動とはどういうものかを体感した。本活動では、教員や大学院学生の指導の下、研究の目的と方法について理解し、目的意識をもって実際の実験に触れることが重視されていた。

日 程： 2015年8月-2016年3月、定められた日程
参加学生： 1名
活動場所： 生産技術研究所 サステイナブル材料国際研究センター
備 考： 東京大学生産技術研究所
前田研究室 <http://maedam.iis.u-tokyo.ac.jp/>

12. 量子力学・表面科学短期体験

英語の論文を読み、その論文内容に関連した実験を行った。具体的には、Ir(111)上へのグラフェン合成に関する論文に書かれた方法でIr(111)にグラフェンを合成し、さらにそのグラフェンに対しどのように水素が吸着するかという実験を行った。活動の最終日には研究室に所属する教員や大学院学生の前で活動報告を行った。

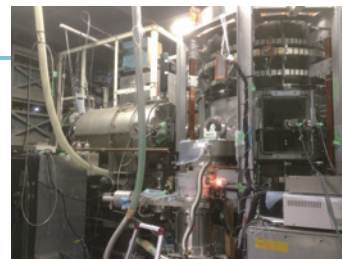
日 程： 2015年8月-11月、定められた日程
参加学生： 1名
活動場所： 生産技術研究所
備 考： 東京大学生産技術研究所基礎系部門
福谷研究室 http://oflab.iis.u-tokyo.ac.jp/Main/home/home_j.html



活動最終日の発表の様子

13. 核融合プラズマ実験入門 ―人工太陽は創れるか？―

講義と実験が組み合わされた「新しいタイプの核融合エネルギー開発の入門プログラム」に参加し、核融合エネルギー開発の現状と将来についての理解を深めた。講義では、核融合の技術、開発の歴史について学び、人工太陽はどのように作るのかを考えた。実験では、UTST球状トカマク実験設備を利用し、挿入したトリプルプローブの電流・電圧値から、プラズマ合体時の電子温度、密度等の計算を行った。



UTST球状トカマク実験装置

日程：2015年7月-9月、定められた日程
参加学生：1名
活動場所：本郷キャンパス
備考：東京大学大学院新領域創成科学研究科
小野・井研究室 <http://tanuki.t.u-tokyo.ac.jp/>

14. 知能移動ロボットの行動と制御

教育版レゴのマインドストームを用いて、移動ロボットを製作、プログラミングし、与えられた課題を実現した。参加者のプログラミングスキルに合わせて設定された課題は、「壁を検知して自動で止まる」「特定の色を検知して止まる」「風船の据え付けられた他のロボットを検知し風船を割る」の3つで、最後には参加者同士が製作したロボットで風船割りを実現することができた。実際に動くロボットを自主製作できたことは、ロボティクス基礎を体験して今後もロボットを製作したいと考える機会になった。



製作したロボットとプログラミング

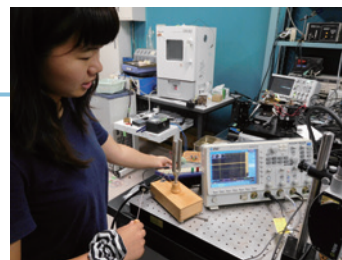
日程：2015/8/17(月)-8/21(金)
参加学生：2名
活動場所：柏キャンパス 人工物工学研究センター
備考：人工物工学研究センター 移動ロボティクス研究室
<http://www.race.u-tokyo.ac.jp/otalab/index-j.htm>



風船を取り付けたロボット

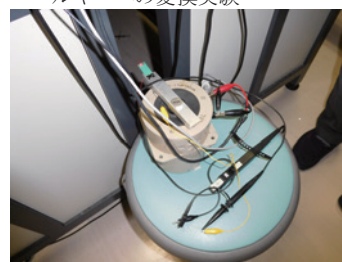
15. 電気機械エネルギー変換を体験する

環境発電、振動制御、ノイズキャンセル、超精密位置決めなどに応用可能である、圧電セラミックの電気機械エネルギー相互変換を体験した。まず圧電素子の共振周波数を調べ、圧電素子を加振器を使用して加振した。これによって圧電素子から発生した交流電流を、自作のブリッジ回路で整流し、コンデンサに蓄電した。自分の手を動かして実験し、圧電セラミックの理解を深めると同時に、実験の成功には計測機器の知識が必要であることも学んだ。



振動エネルギーから機械エネルギーへの変換実験

日程：2015/8/17(月)-8/21(金)
参加学生：2名
活動場所：柏キャンパス 環境棟
備考：大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻
保坂・佐々木・森田研究室
<http://www.ems.k.u-tokyo.ac.jp/index.html>



加振器を使用した機械的振動実験

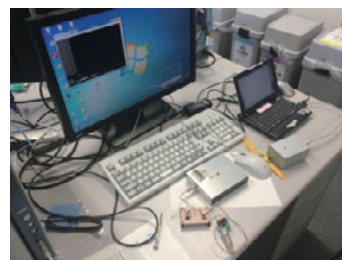
16. 人体通信を体験する

人体通信は人体を伝送路の一部として利用する通信方式で、ウェアラブル機器への応用が期待されている。本活動では、研究室のデモ機器で姿勢や触れ方による通信状態の違いを確認した後、人体通信の発信機となる高周波発振回路と受信機となる増幅回路を製作した。参加学生同士ではんだ付けや回路を制御するマイコンのプログラミングを行い、最終的に製作した回路を用いて人体通信の伝送特性を評価した。

日 程： 2015年8月-9月、各自定められた日程
参加学生： 2名
活動場所： 柏キャンパス 環境棟
備 考： 大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻
保坂・佐々木・森田研究室
<http://www.ems.k.u-tokyo.ac.jp/index.html>



教授に質問しながら発信機を製作



製作した機器や回路など

17. モーションセンサによる人間行動認識手法の研究

モーションセンサを利用して日常生活の行動を認識する手法を研究した。音声、体内音、血圧、脈拍、心電、筋電、体表温度などの生体情報を用いて日常の健康状態を管理した。スマートフォン内蔵あるいは研究室所有の加速度センサや角速度を内蔵したモーションセンサを使って、人間の日常生活の行動を認識する方法を研究した。具体的に、ウォーキング、ランニング、階段上り、階段降りのような行動を取った時の加速度情報や姿勢情報を記録し、これらの波形を分析することによって、行動ごとにどのような特徴を抽出すれば識別できるかを考えた。

日 程： 2015年9月-2016年2月、各自定められた日程
参加学生： 2名
活動場所： 柏キャンパス 環境棟、本郷キャンパス 工学部2号館
備 考： 東京大学大学院新領域創成科学研究科 人間環境情報学分野
<http://www.lhei.k.u-tokyo.ac.jp/>

18. 環境調和型技術としての超臨界水を学ぶ

超臨界水の工学的応用に関する実験を行った。超臨界水の応用例には主に、①廃棄物の無害化(分解)、②廃棄物から有価物を回収、③水中での有機合成、④有機物からの有用成分回収、などがあると学び、本活動では①と③の実験を体験した。前半は超臨界水酸化小型装置を用いてメタノールを分解し、後半はオクテンの水和反応を行った。

日 程： 2015/9/1(火)-9/3(木)、9/7(月)
参加学生： 1名
活動場所： 柏キャンパス 環境棟
備 考： 東京大学大学院新領域創成科学研究科環境システム学専攻
大島研究室
<http://www.oshimalab.k.u-tokyo.ac.jp>



廃液を処理する超臨界水酸化小型装置



溶液調製

19. 柏キャンパスおよびその周辺の自然環境モニタリング

柏キャンパス周辺の自然環境について、調査および保全活動を通して考えた。活動初日は、柏市の里山バイオマス(木の燃料)利用のイベントで薪利用ストーブの広報活動をした。午後には毎木調査に同行し樹種と直径を記録し、後日そのデータを用いて里山のバイオマス量を推定した。実験室では昆虫(地表徘徊性甲虫類)調査を体験し、昆虫モニタリングが里山保全において果たす役割を学び、最終日に研究室の教授らと活動について報告した。

日 程: 2015/10/25(日)、11/12(木)、2016/1/25(月)、1/29(金)
参加学生: 2名
活動場所: 柏キャンパス周辺、本郷キャンパス工学部、農学部
備 考: 大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻
自然環境評価学分野 <http://hyoka.nenv.k.u-tokyo.ac.jp/>



柏市の里山バイオマス(木の燃料)利用のイベント



都市緑地としての里山を学ぶ講義

20. 利根川水系におけるニホンウナギの生態学的研究

本活動は、ニホンウナギの生態調査から自然環境のあるべき姿を学習することを目的に、利根川でのウナギ採取を体験するものである。研究室の教授やポスドク、大学院学生と一緒に柏キャンパスの大気海洋研究所から移動し、電流を発生させる装置を背負って川に入り、ウナギが生息していそうな植生や隙間のある場所に電極を近づけ、感電して浮いてきたウナギを網で捕獲した。

日 程: 2015/8/19(水)
参加学生: 2名
活動場所: 柏キャンパス大気海洋研究所、利根川
備 考: 大学院新領域創成科学研究科 自然環境学専攻
海洋生物圏環境学分野 <http://mbe.aori.u-tokyo.ac.jp/>



利根川での生態調査

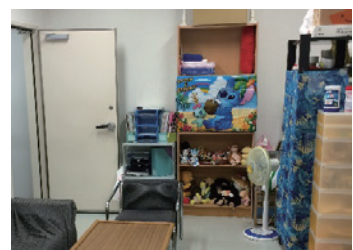
21. 発達障害のある子どもを対象とした認知心理実験の現場体験

実際の認知心理実験場面に立ち会い、実験参加者の誘導や接遇、実験データの打ち込み等実験実施のサポート業務を体験した。発達障害のある子供達が数年の間に見違えるほど成長したという過程を見て、発達の持つ可能性の大きさとその不思議さに驚くと同時に、この分野の奥深さに感心させられた。研究に関しては、実験の進め方(1つの実験あたりの拘束時間・実験デザインの仕方・被験者の集め方・実験時の生活スタイル)について、知識が得られた。

日 程: 2015/8/1(土)~8/31(月)、各自定められた日程
参加学生: 2名
活動場所: 駒場キャンパス 進化認知科学研究センター
備 考: 大学院総合文化研究科 教養学部 長谷川研究室:
http://beep.c.u-tokyo.ac.jp/index_japanese/Home.html



自閉症の研究者達と



実験参加者の休憩室

22. DO-IT (Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology) Japan

肢体不自由や視覚、聴覚、発達障害などがある高校生と大学生、及び読み書き障害のある小学生を対象としたDO-IT Japanの活動に、学習・生活支援スタッフとして参加した。3泊4日の夏季プログラムでは、スカラーの自主性を重んじながら、移動のサポート、パソコン操作のアドバイス、食事の介助、ノートテイク、シンポジウムの会場設営などを行った。

日 程： 2015/8/2(日)-8/5(水)、各自定められた日程

参加学生： 6名

活動場所： 駒場第二キャンパス 東京大学先端科学技術研究センター

備 考： DO-IT Japan <http://doit-japan.org/2015/>



夏季プログラム最初のオリエンテーション



スカラーと一緒に移動

Ⅲ 体験活動プログラム活動報告会

2016年2月29日(月)、本郷キャンパス鉄門記念講堂にて、体験活動プログラム活動報告会を開催した。プログラムに参加した学生、学生を受け入れた学外関係者及び本学教職員等約160名が出席した。

理学部の瀧川翼と、教養学部前期課程の遠藤章仁の進行で開会した。まず五神真総長より、多様性の尊重や自己を相対化する視野を養う体験活動の重要性と、学生に成長の機会を与えてくださった受入関係者への謝辞が述べられた。

参加学生による活動報告の前に、本学教育学研究科の大久保圭介が体験活動プログラムの福井県池田町での地域文化体験プログラムに同行し、観察やインタビューから考察したプログラム実施の効果・評価を報告した。



五神真総長の開会の挨拶



司会の遠藤章仁(左)と瀧川翼(右)の進行で開会



教育学研究科の大久保圭介

続いて、5つのプログラム(シンガポール「シンガポールでビジネスを学んでみよう」、日本近海「測量船による海洋観測実地体験」、アメリカ「世界の情報発信の中心地、ニューヨークの脈動を体感してみよう」、東京都「東大病院入院中の難病の子どもを家族を支援するドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンのインターンシップ」、徳島県「陶板複製名画美術館を体験する」)に参加した学生が、体験活動から学んだことや将来に活かしたい経験等について報告した。

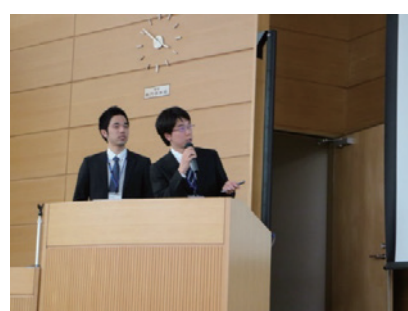
学外機関からは、東大同窓会淡星会からビデオメッセージを頂き、海上保安庁の中林茂氏、ニューヨーク銀杏会の廣川謙一氏、公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンの弘中信治氏が、学生を受け入れた感想などをお話された。



シンガポール「シンガポールでビジネスを学んでみよう」



東大同窓会淡星会のビデオメッセージ



日本近海「測量船による海洋観測実地体験」



海上保安庁の中林茂氏



アメリカ「世界の情報発信の中心地、ニューヨークの脈動を体感してみよう」



ニューヨーク銀杏会の廣川謙一氏



東京都「東大病院入院中の難病の子どもの家族を支援するドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンのインターンシップ」



公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンの弘中信治氏



徳島県「陶板複製名画美術館を体験する」



人文社会系研究科の高岸輝准教授



会場の様子

最後に南風原朝和理事・副学長より、プログラム参加学生の変化、成長、困難への対応を客観的に評価する取組について説明と、受入関係者への感謝の言葉が改めて述べられた。

なお、体験活動プログラムの発展に顕著な功績のあった個人・団体に感謝の意を表し功績をたたえる「特別功労賞」が創設され、東大同窓会さつき会アメリカの大迫政子氏、青森県深浦町の山本千鶴子氏、新潟農園の新岡重光氏、大塚国際美術館様、東京都立北特別支援学校東大こだま分教室様5件の個人・団体が受賞された。

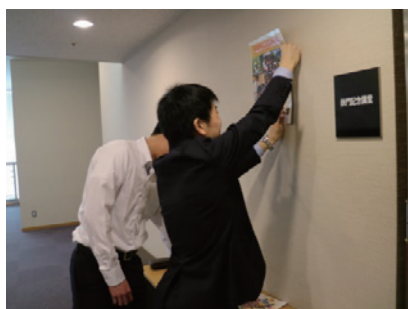


南風原朝和理事・副学長の閉会の挨拶



特別功労賞授賞式

報告会後の懇談会は、学内外の関係者が活動を振り返り、意見交換をする有意義な交流の場となった。今年度の報告会及び懇談会を実施するにあたり、約20名の学生が企画・立案、当日の司会、受付及び会場案内などの役割を担い主体的に運営に参画したことは、本プログラムにおける成果の一つとなった。



報告会開会前の準備



懇談会開会



運営に携わった学生スタッフ

平成 27 年度体験活動プログラム報告会

日時：平成 28 年 2 月 29 日（月）

15:00～

場所：医学部鉄門記念講堂

（本郷キャンパス）

式 次 第

一．開 会

一．総長挨拶

【五神 真 総長】

一．特別功労賞授与

一．プログラム概要と効果 【大久保 圭介 教育学研究科修士課程1 年】

一．活動報告

◆シンガポールでビジネスを学んでみよう

◆測量船による海洋観測実地体験

◆世界の情報発信の中心地、ニューヨークの脈動を体感してみよう

◆東大病院入院中の難病の子どもたちの家族を支援する

ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンのインターンシップ

◆陶板複製名画美術館を体験する

一．理事挨拶

【南風原 朝和 理事・副学長】

一．閉 会

《司会》理学部3 年 瀧川 翼

教養学部前期課程理科二類2 年 遠藤 章仁

Hands-on Activities 2015

Debriefing Meeting

Date: (Mon.) 29 February 2016, 15:00~

Place: Tetsumon Memorial Hall

Faculty of Medicine Experimental Research Bldg.
(Hongo Campus)

【MC : Tsubasa Takigawa Akihito Endo】

Opening

Message from the President 【Makoto Gonokami, President】

UTokyo Award for Distinguished Contribution to the
Hands-on Activities 2015

Summary and Evaluation

【Keisuke Okubo, 1st Year, Graduate School of Education】

Presentations

- ◆ Visiting UTokyo alumni to learn about business and working in Singapore
- ◆ Experiencing oceanographic survey aboard an observation vessel
- ◆ Visiting UTokyo alumni in N.Y., a worldwide hub city for global information
- ◆ Volunteer work at Ronald McDonald House Charities Japan
- ◆ Work experience at an art museum of ceramic replicas of famous Western paintings

Message from the Vice President 【Tomokazu Haebara, Vice President】

Close

IV 付録：体験活動プログラム概略



体験活動プログラム Hands-on Activities



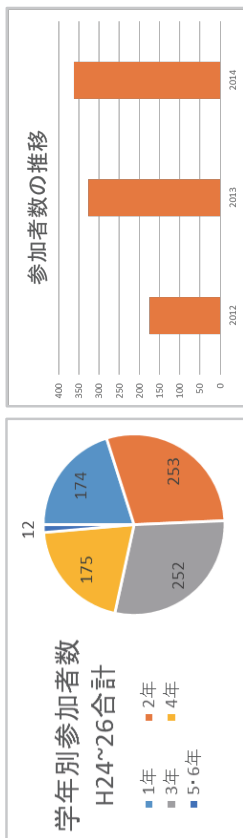
非公認キャラクター
もりかも

東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

体験活動プログラムとは

東京大学の学部学生が、今までの生活と異なる文化・価値観に触れるプログラムです。新しい考え方や生活様式を学び、「知のプロフェッショナル」に必要な基礎力である、自ら新しいアイデアや発想力を生み出す力を身に付けます。

東京大学独自のプログラムとして平成24年度から国内外問わず実施され、ボランティアなど社会貢献活動、国際交流、農林水産業・自然体験や地域体験、学内研究室体験など、多様なプログラムで構成されています。



体験活動プログラムの効果 ※平成26年度

体験活動プログラムに参加する効果を、プログラム終了後に参加学生が提出する活動報告書に加え、東京大学教育学研究科教育心理学専攻の大学院学生が行う質問紙調査による心理学的な成果測定と、プログラムに調査者が参加・同行する参与観察で検証しています。

参与観察

院内学級での学習ボランティアと、農業・漁業と地域体験の、参加学生の変化を観察し語りから考察した。
⇒両プログラム共通で、自身の専門分野の必要性や責任が芽生えた。

質問紙調査による効果評価

体験活動の前後で、2項目で大きな変化があった。
1. 活発で社交的な行動をとる程度を表す「外向性」値の高まり
⇒「社会進出を志す積極性の向上」
・コミュニケーション能力の向上
2. ストレス耐性の高まり
⇒新しい生活の対応能力習得



地方自治体就労体験(三重県)



漁業体験(三崎臨界実験所)



オーガニック農場ボランティア(アメリカ)



卒業生の職場OECD訪問(フランス)



森林フィールド調査
(東京大学北海道演習林)



イオン液体実験(新領域創成科学研究科)

参加学生の感想

初めて渡米し、ニューヨークでは言語、慣習、文化など様々な人間がともに生きている多様性を感じ、世界は広いと衝撃を受けた。(ニューヨーク卒業生との交流)
認知症の妻と足が一本無い夫の高齢者二人で暮らす家や、深夜の老人ホームで高齢者たちのおむつを替えて回る男性など、普段想像できない世界を見た。自分の状況が普通ではなく、ある意味で恵まれた、そしてある意味で狭い世界だと思った。(千葉県 在宅医療体験)



参加学生が活動について発表する報告会では、参加学生有志が同会や誘導を務めます。

本プログラムは学生受入先の学内外関係者のご協力で成立しています。

東京大学本部学生支援課 体験活動推進チーム

taikenkatsudou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp 03-5841-2541/2542

http://www.u-tokyo.ac.jp/stu01/h19_j.html





MORIKAMO
Unofficial mascot

Hands-on Activities



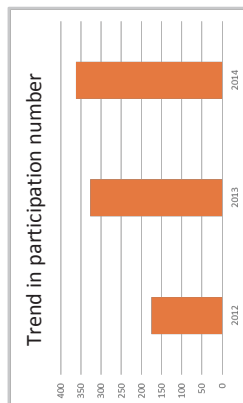
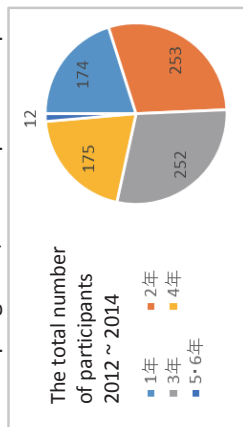
東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

体験活動プログラム

What is "Hands-on Activities"?

The Hands-on Activities offer UTokyo undergraduate students chances to learn about new cultures and sets of values. Through the activities, students discover new ways of thinking and lifestyles, and acquire the skills to make new ideas by themselves, a requirement to be a "knowledge professionals."

The Hands-on Activities, one of original programs in UTokyo, started in 2012 and takes place in Japan as well as abroad, and consists of various programs and such as volunteer work, international experiences, agricultural sciences and nature programs, on-campus lab experiences and so on.



Effects of Hands-on Activities

*The result of researches in 2014

We are researching into the impacts the Hands-on Activities has on the students using questionnaire based surveys and participant observation by graduate students majoring in educational psychology, in addition to report written by participants.

participant observation

From participant observation in two of the programs - child-care volunteer work at a hospital, and experience-based activity of fishery and agriculture, the researcher concluded that the participants' awareness of the importance of the subject that they were majoring in increased.

questionnaire based survey

Large changes were seen in two areas after the activity.

- 1 Extroverted nature increased leading to:
→ "being more proactive to advance into society"
- 2 Improvement of communication skill
- 3 Increase in stress tolerance
→ gaining the ability to adapt to new environments



Fishery experience
(Misaki Marine Biological Station)



Forest field research
(UTokyo Hokkaido Forest)



Work experience at an organic farm
(NJ, USA)



Alumni visit at OECD
(Paris, France)



Work experience at a town office
(Mie, Japan)



Work experience at a town office
(Mie, Japan)

Participants reports

I visited N.Y. for the first time and saw people with different languages, conventions and cultures living together. I was shocked to realize how wide the world was.
(N.Y., Meet with alumni)

I saw the unimaginable life of an old couple where the wife had Alzheimer's and the husband who had only one leg, and a staff of a nursing home walking around all night changing residents' diapers. I realized that my life is not common but in a way fortunate, as well as in some way very limited. (Chiba, Experience in home medical care)



The debrief sessions where participants make presentations are run by the students themselves.

Hands-on Activities is only possible with the support of the people who accept students.

Hands-on Activities Support Team, Student Support Group, UTokyo
taikenkatsudou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp 03-5841-2541/2542
http://www.u-tokyo.ac.jp/stu01/h19_j.html





平成27年度 体験活動プログラム活動報告

作成

編集

住所

電話番号

URL

平成28年6月

東京大学 教育・学生支援部 学生支援課 体験活動推進チーム

〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1

03-5841-2541/2542

http://www.u-tokyo.ac.jp/stu01/h19_j.html